

吉備国際大学研究紀要

(医療・自然科学系)

第26号, 51-62, 2016

地域高齢者と看護学生及び児童との 世代間交流プログラムの実践報告

—看護学生の交流会への参加と高齢者観の視点から—

岡 和子・太湯 好子・木村 麻紀・澤田 和子・岡本 さゆり

Report on Intergenerational Exchanges between Local Elderly People, Nursing Students, and Children

— A Study Concerning Views on the Elderly in a Gathering of Nursing Students —

Kazuko OKA, Yoshiko FUTOUYU, Maki KIMURA, Kazuko SAWADA, Sayuri OKAMOTO

Abstract

The purpose of this study is to obtain foundational materials for the development of an intergenerational exchange program, based on the thoughts and views on the elderly of nursing students who participated in a gathering for intergenerational exchange, through exchanges between three parties: elderly people who are members of the senior citizens club, children in after-school care programs, and nursing students.

Through the gathering for intergenerational exchange, nursing students deepened their feelings of respect for the elderly by learning some of the wisdom of these elderly people. All of the nursing students hoped to continue these exchanges with the elderly into the future. The advantages of intergenerational exchanges are that the elderly are able to “guard against social isolation”, “make social use of their knowledge and experience”, and “increase their quality of living” while the nursing students are able to “carry on historical and cultural knowledge”. Furthermore, both the elderly and the nursing students “receive mutual benefits” and “help to unify the local community”.

We believe that intergenerational exchanges are effective at providing nursing students with many opportunities with the elderly through clinical training and at providing students with a positive impression of the elderly. In this study we were able to have an intergenerational exchange of viewpoints.

We would like to develop a program for intergenerational exchange in the future as well where both the elderly and nursing students can achieve satisfaction.

Key words : Intergenerational relationship, Elderly, Nursing students

キーワード : 世代間交流, 高齢者, 看護学生

1. はじめに

世代間交流のプログラムは米国で1960年代から行なわれた。その背景として米国では、子どもは早い時期に親から独立し、祖父母と暮らすことは一般的ではなかったことがあげられる。結果高齢者と孫世代の距離がありすぎることが問題視され、2つの世代を（血縁関係でなくて）結びつける取り組みが体系的に実施されるようになった¹⁾。その後、1980年代から1990年代にかけてプログラムの焦点は、世代間の分離を埋めるものから地域共同体の問題に取り組むことに移行してきた²⁾。我が国においても少子化、高齢化、核家族化が進み、1980年代には、「世代間交流」という概念が使用され始めた³⁾。1993年になり、総務省老人対策室は、「世代間交流に関する調査研究」の結果を基に、市町村の政策担当者向けに世代間交流マニュアルを作成している⁴⁾。米国、ヨーロッパではすでに「世代間交流」が学問として定着しているが、わが国では、2006年になり初めて日本世代間交流協会が設立、2010年に日本世代間交流学会が設立され、取り組みは、始まったばかりである⁵⁾。

わが国の高齢化率は、2015年は23.3%で、2025年には30.4%と大幅な増加が推計されている⁶⁾。一方、高齢者を支える14歳未満の人口は減少しており、2010年では13.1%であり、2025年には11.0%と推計され⁷⁾ 高齢者を支える人口の減少がますます進むことが見込まれる。

看護学生は、臨地実習等で高齢者と接する機会が多く、卒業後は地域における看護の担い手として重要な役割が期待される。そのため大学在学中から、高齢者に対してより肯定的なイメージがもてるような取り組みが必要となる。草野は⁸⁾「世代間交流」

の利点として、①子どもにとって人間関係の拡大 ②高齢者の社会的孤立を防ぐ ③高齢者の能力、英智、経験の社会的活用 ④歴史的、文化的交流と伝承 ⑤個々人の人間発達を推進し、相互互惠性から相乗効果をもたらす ⑥生活の質を高める ⑦交流を通じて地域社会の統合 ⑧社会問題の解決などを挙げている。また、藤原ら⁹⁾は高齢者による児童への絵本の読み聞かせボランティアによる介入研究で、高齢者との交流頻度の高い児童では、1年後も高齢者に対する肯定的なイメージが保たれていたという結果を報告している。

高齢化率が37.0%（2014年）¹⁰⁾と超高齢社会を迎えているT市において、老人クラブに所属している高齢者に対して木村ら¹¹⁾によるアンケート調査の結果、子どもとの交流について「ほとんどない」「あいさつ程度」と合わせて7割弱であり、子どもと交流希望が「ある」と回答した高齢者は5割であった。澤田ら¹²⁾によるT市の学童保育に所属している児童と、保護者のアンケート調査によると、地域の高齢者が学童保育に来てくれることをどちらもが歓迎していた。また、保護者も高齢者に関わることに好意的な印象を持っていた。そこで、T市の老人クラブの高齢者と学童保育を利用している児童と看護学生の三者が世代間交流会を行うことを計画した。本研究においては、交流会に参加した看護学生の参加後の学び、高齢者観について調査をし、今後の世代間交流プログラム開発のための基礎資料を得ることを目的とした。

2. 世代間交流プログラムの定義

世代間交流とは、社会に存在する様々な資源や知識・知恵を高齢世代と若年世代の人々で交換し合い、

個々人や社会の役に立つものにしていくための意図的・継続的な取り組みとする¹³⁾。

3. 研究方法

(1) **研究対象** A大学看護学科 3年生13人(男性5人・女性8人)

(2) **研究期間** 平成27年6月1日～平成27年12月31日

(3) **交流会のプログラム内容**

本プログラムは2回実施し、交流会実施前の準備から実施当日まで、大学の授業の空き時間や休日を利用し、行った。

1) 第1回交流会の実際(8月上旬)

(a) 目的

T市老人クラブの高齢者から暮らしの知恵や地域の伝承を学ぶことで、大学生は将来の地域の担い手として、児童は未来の担い手として、豊かな地域の暮らしを守る人材となることを目指す。

(b) 参加者

老人クラブの75歳以上の高齢者6人(男性2人・女性4人)、学童保育を利用している児童23人〔1年生5人(男性4人・女性1人)、2年生11人(男性7人・女性4人)、3年生5人(男性4人・女性1人)、4年生2人(男性1人・女性1人)〕看護学生13人(男性5人・女性8人)・大学教員4人

(c) 事前準備

(関連団体等の協議)

- ① T市子ども未来課と本年度の活動について協議
- ② 老人クラブ会長と本年度の活動について協議
- ③ 学童保育職員と本年度の活動について協議
- ④ 老人クラブ会長と第1回交流会の内容と方法について打合せ
(看護学生の事前準備)
- ⑤ 看護学生間で本年度の活動について打合せ

⑥ 看護学生が老人クラブからの依頼のあったT市の名所、旧跡を巡り写真撮影をし、パワーポイントを作成

⑦ 看護学生がレクリエーションの企画

⑧ 看護学生が当日の運営を行うため、準備とリハーサルの実施

(d) 交流内容

① T市の名所旧跡について、看護学生がパワーポイントを作成し、高齢者がそれを見ながら説明する

② レクリエーションは、高齢者、学童、看護学生の三者が楽しめるものとした。【aカード集めゲーム、b果物入れゲーム、c何ができるかな(貼り絵を3グループに分かれて行い、最後に出来たものを合体させる)、d紙飛行機の作成と飛行】

2) 第2回交流会の実際(10月下旬)

(a) 目的

A大学学園祭にT市老人クラブの高齢者やT市学童保育の児童を招待し、看護学科について理解を深めてもらうとともに、第1回の交流会の写真やレクリエーションで作成した作品を展示し、前回の交流会について意見交換を行い、今後の活動につなげる。

(b) 参加者

老人クラブの高齢者8人(男性2人・女性6人で全員75歳以上の高齢者)、看護学生6人(男性2人・女性4人)・大学教員3人、学童保育の児童は当日、人数がそろわず不参加

(c) 交流内容

- ① 高齢者は、A大学学園祭で学部の展示コーナーを体験(学部全体が企画した健康チェックのブースを回り、血圧測定や健康相談を行う)
- ② 看護学生は、高齢者の血圧測定を実施
- ③ 高齢者と看護学生の交流会(前回の交流についての感想と今後の活動内容について話しあう)

(4) 調査内容と調査時期

1) 第1回交流会直後の調査（8月初旬）

(a) 交流会参加後の学び

(b) T地域の歴史をふまえて、大学生として出来る今後の活動

2) 第2回交流会直後の調査（10月下旬）

(a) 交流会参加後の学び

3) 第1回、第2回の交流会を通しての調査（11月下旬）

(a) 現在までの高齢者との交流の種類と内容について

(b) 交流会実施後の高齢者観

張平平¹⁴⁾による看護学生と地域高齢者との世代間交流に関する結果から、看護学生の学びについて抽出したコードとカテゴリーをもとに、質問項目として20項目を作成した。回答は、「そう思う」は○、「そう思わない」は×を記入し、それぞれの質問項目に関して「そう思う」、「そう思わない」理由を記述してもらった。

(5) 倫理的配慮

本調査の趣旨を説明し、記入したデータは、統計的に処理され個人が特定されないこと。また、研究目的以外には使用しないこと、成績には影響しないこと、本研究に協力しないことによる不利益はないことを説明し協力を得た。

4. 結果

(1) 第1回交流会直後の調査（8月上旬）

A大学看護学科3年生13人に調査を行い、有効回答数は、13人（有効回答率100%）であった。

1) 交流会参加後の看護学生の学び

看護学生全員が交流会は楽しく、T地域の歴史が分かり、レクリエーションも楽しかったと答えていた。交流会実施後の学びについては、表1のとおりである。

表1 第1回交流会参加後の学び

n=13

1	子どもたちや高齢者と交流する機会はあまりないので、今回参加できて良かった。また、高齢者の方からT市の歴史についての話を聞くことができたので良かった。
2	いろいろな世代が集まって1つのことを共有できるのは、すごく良いことだと思ったし、とても楽しかった。大学生は高齢者と小学生の間に立ち、どちらにも中立の立場で行えたらいいと思った。
3	自分たちの作成したパワーポイントを基に老人会の方から、歴史について教えてもらったり、知らなかったことを知る良い機会となり、参加してよかった。
4	準備する時間が短かったので、うまくできるか不安だったが、うまく行って良かったです。楽しんでもらっているようでした。
5	交流会を通じて子どもたちや老人会の方たちと触れ合うことができて楽しかった。
6	子どもたちも老人会の方も一緒に楽しむことができ良かったです。どのゲームも思った以上に盛り上がることができました。ちぎり絵は、高齢者の方も楽しそうにしておられ、会話の機会にもなっていたように思いました。交流会が終了したら少し疲れましたが、時間があっという間に過ぎました。
7	緊張していましたが子どもたちが思った以上に乗ってくれて、助かりました。高齢者の方との関わりが、自分のことでいっぱいではなかったと思った。
8	高齢者も子どもも楽しんで、今回の交流は、成功だったと思った。

2) T地域の歴史をふまえて、大学生として出来る今後の活動

「歴史について学び、若い人たちに伝えたい」「小学生でT市の歴史について知らない、施設の中に入ったことがない子がいたので、一緒に回り、お城に登る」「皆と一緒に名所めぐりをする。ゴミ拾いなど奉仕活動を行って環境を守る」「地域での交流会を通してT市を盛り上げていくような活動をやる必要がある」などであった。

(2) 第2回交流会直後の調査（10月下旬）

A大学看護学科3年生6人に調査を行い、有効回答数は、6人（有効回答率100%）であった。

交流会の感想は、表2のとおりである。

(3) 第1回、2回目の交流会を通しての調査（11月下旬）

A大学看護学科3年生12人に調査を行い、有効回答数は、12人（有効回答率100%）であった。

表2 第2回交流会参加後の学び n = 6

1	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方に、実際に大学に足を運んでいただいたので、交流できたことはとてもよかったと思います。「健康相談などもできて良かった」との感想もあり、このような交流の仕方もあるのだと思いました。 ・「情報がないと学生や大学がこのような活動をしていることが分からない」と言われていたのを聞いて、まずは活動を広めることが大切であると思いました。 ・交流することで地域のことや昔のことなど様々なことを知る機会となり、お互いを知ることにもつながり楽しく時間を過ごすことができると思います。今回は、お茶やお菓子を一緒にいただきながら、前回の交流会の感想や改善点などを話し合うことができたので良かったです。このように一緒に話し合いながら、次の交流に向けて準備ができればよいと思いました。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・血压測定時にお話をして、いろいろな機会をとらえながら交流を深めることができたのは良かった。 ・今回は、血压測定の時しか一人一人と会話する機会がなかったので、深い話をするができませんが、次回はイベントなどを一緒に行うことでもっと交流を深めていきたいと思った。 ・老人会の方は、自分の健康について考えている人が多かったので、私たちが授業で勉強した内容を含めながら、一緒に体操などを行うことができればより楽しくすることができると思う。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・本日、世代間交流の意義について改めて考えさせられた。普段、学生や先生など限られた人としか関わりのない中で、血压測定したり前回の交流会の写真を見ながらお話をすることで、私たちではわからない知恵を教えていただくことができた。 ・ただお話をするだけでなく、何かをやりながらだと話も膨らみやすいと感じた。人と話すことから学ぶことはたくさんあると感じたし、これからの臨地実習においてもコミュニケーションは大きな課題だと思うので、この交流会は大きな意義があると感じた。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・今回2回目の交流会を行い、前回は行った交流会のことについて話をして、高齢者の方から「楽しかった」「あれが良かった」「今度は運動会とかもしたい」という意見があった。 ・次は何をやりたいという意見が聞けたことにより、次回につなげていけると感じました。 ・このように、意見を出し合ったり、話し合いの場を作っていくことも大切だと感じました。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・全回の交流会を振り返り、次回の交流会について具体的な話をする事ができて良かったと思う。 ・「運動会」「昔の遊び」「皆でものづくり」「出身地の自慢ばなし」など皆で楽しむことが出来そうな案がいくつか出た。 ・前回の貼り絵が自分を含めとても楽しかったので、次回もみんなで何かすることができたらいいと思う。老人会の方からも「あれは楽しかった」と好評をいただいたので、参加して良かったと感じた。計画を立てて、また次回できたらいいと思う。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の交流を通して、老人会の方がこんなにも喜んでくれているという事を知りました。 ・学生と老人会の方とではできることが限られてきますが、三世代で活動することによって出来る事が多くなると感じました。また、三世代で交流することで小学生にも刺激になったと思います。 ・高齢者の知恵を借りつつ、また交流出来たらよいと思いました。お菓子作りや花見など。

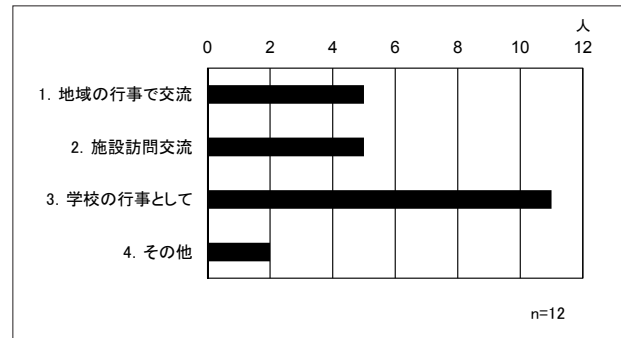


図1 交流体験の種類

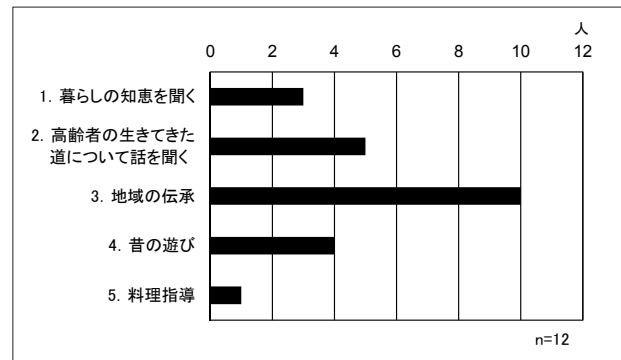


図2 交流体験内容

1) 現在までの高齢者との交流の種類、交流内容について

交流の種類は、図1の如く、「学校での行事」が11人で最も多かった。

交流内容は、図2の如く、「地域の伝承」が10人で最も多かった。

2) 1, 2回の交流会を終えて、高齢者と交流後の看護学生の学びとその理由

(a) 高齢者への理解と尊敬

高齢者への理解と尊敬について、図3と表3に示す如く、「1 高齢者は、健康に対する関心が高い」「3 加齢に伴う身体機能の低下と外見の変化に気づいた」で、「はい」と回答したのは、どちらも11人(91.7%)である。

その理由は、健康についての知識が豊富、ウォーキングしている人が多い、「身体を動かさないといけないね」などの発言からである。また、白髪やしわ、猫背などの外観の変化に気づき、大きな声で話

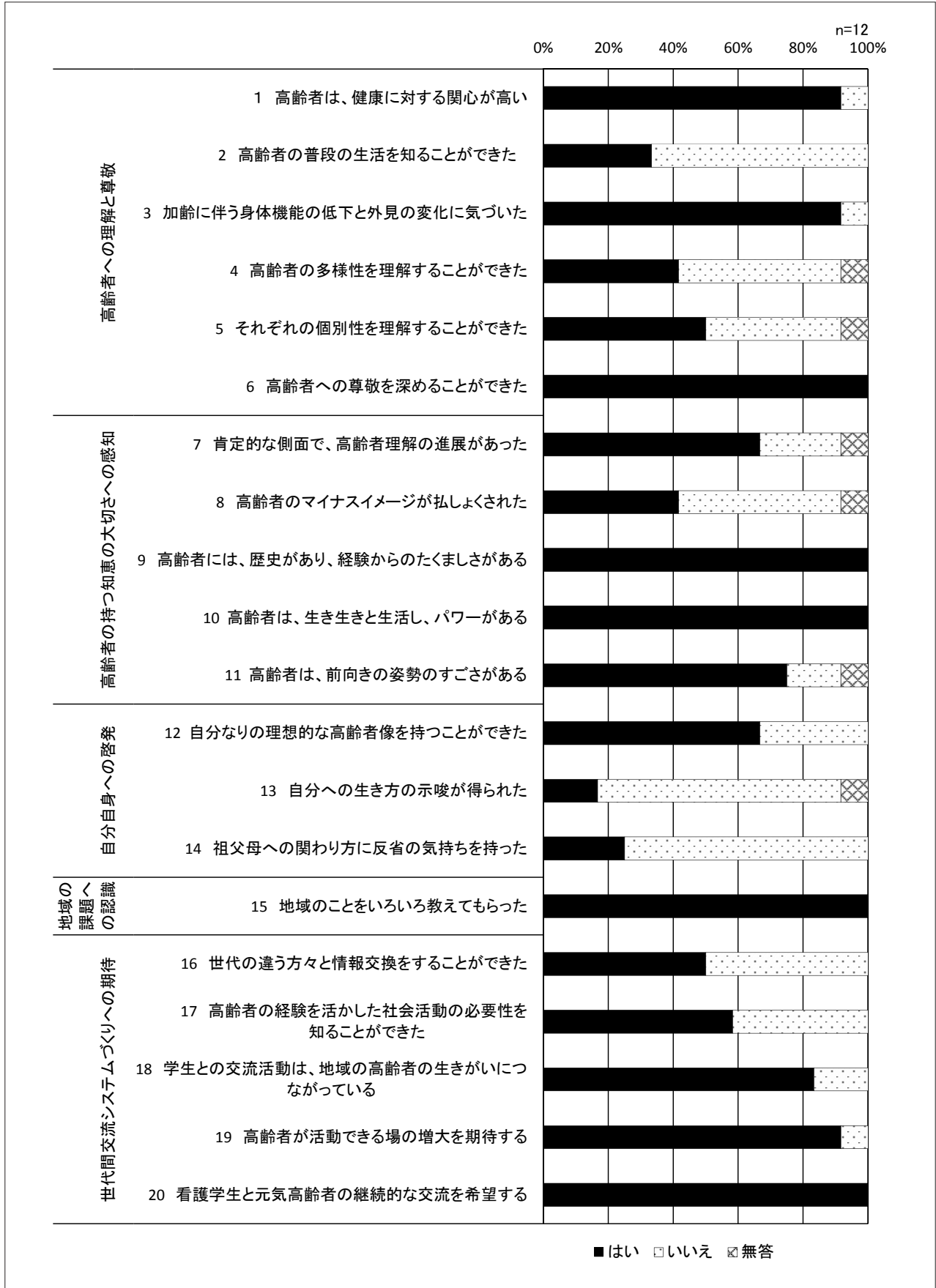


図3 看護学生の交流会実施後の高齢者観について

表3 高齢者への理解と尊敬 n=12

質問項目		「そう思う」、「そう思わない」理由
1 高齢者は、健康に対する関心が高い	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにすれば健康でいられるかの知識が豊富 ・ウォーキングしている人が多い ・「身体を動かさないといけないね」と言っていたから
2 高齢者の普段の生活を知ることができた	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・普段、若者との関わりがないと聞いていたから ・日常生活についての情報を得た
	思わない	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅などに行ったことがないためイメージがわからない ・そういう話をしなかった
3 加齢に伴う身体機能の低下と外見の変化に気づいた	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・白髪、しわがあり、大きな声で話さないと聞こえにくそうであった ・猫背になっている ・腰が曲がっていた ・手や指の変形が目についた ・自分たちが普通にできることでも高齢者の人達はつらそう ・歩行時の速度の低下や、バランスの不安定さがみられた
4 高齢者の多様性を理解することができた	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の高齢の方と接することができたため ・目が不自由な方や、疾患を患っている方がいて、いろんな年の取り方を感じた ・家にこもっている人もいれば、こうして交流に出ている人もいるという事が分かったから
	思わない	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性が理解できなかった ・個人で話すことが少なかったため
5 それぞれの個性を理解することができた	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・性格、年齢、性別、身体機能の低下がそれぞれで違うのが理解できた ・よく話す人、聞き手に回る人など様々な人がいた ・今まで生きてきた中での価値観などが違う
	思わない	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の人しか話せなかった ・個人で話すことが少なかったため ・交流会では高齢者の個々の話を聞くことはできたが、個性については今回だけでは理解することができない
6 高齢者への尊敬を深めることができた	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことや若年者のことを大切にしていることが良く伝わって来たから ・知識を惜しみなく教えてくださる ・知識も常識などもあり、人生の先輩として、見習うことがたくさんある ・自分の意見を持っており、助言を多くしていただいた ・暮らすうえで知恵を教えていただいた ・話を聞く中で高齢者の心の広さ、強さに驚いたため

さないと聞こえにくそう、自分たちが普通にできることでも高齢者の人達はつらそうなど機能面の低下を自分と比較してとらえていた。

「5 それぞれの個性を理解することができた」では「はい」と回答したのは6人(50%)で、「4 高齢者の多様性を理解することができた」は5人(41.7%)であり、高齢者は、性格、年齢、性別、身体機能の低下、価値観がそれぞれで違うことが理解できていた。

「2 高齢者の普段の生活を知ることができた」は、「いいえ」と回答したのは8人(66.7%)で、自宅に行ったことがない、そういう話をしなかったことを理由に挙げていた。

「6 高齢者への尊敬を深めることができた」は全員が「はい」と回答した。その理由は高齢者が地域のことや若年者のことを大切にしていることや、知識や常識などもあり、人生の先輩として見習うことがたくさんあるなどであった。

(b) 高齢者の持つ知恵の大切さへの感知

高齢者の持つ知恵の大切さへの感知については、図3と表4に示す如く、「9 高齢者には、歴史があり、経験からのたくましさがある」「10 高齢者は、生き生きと生活し、パワーがある」は、どちらも全員が「はい」と回答した。その理由は、経験豊富でたくましい雰囲気を感じた。T市の歴史を詳しく説明して下さり、説得力があったなど、交流会で高齢者が生き生きとし、元気に満ち溢れている姿を見てパワフルと感じていた。また、高齢者が積極的に発言され、学生も楽しく参加できたと回答した。

「11 高齢者は、前向きの姿勢のすごさがある」で、「はい」と回答したのは9人(75%)で理由は、高齢者の会話から人生を楽しんでいる様子がうかがえ、T市の歴史について説明する時、次々に自分の考えを言われていたことやマイナスな言葉もなく、表情もずっと笑顔だったことをあげている。

「7 肯定的な側面で、高齢者理解の進展があっ

た」で「はい」と回答したのは8人(66.7%)で、理由は、高齢者を身体機能低下の側面から援助していく必要があることが理解できたことや、歳を重ねてもとても元気で、まだまだ楽しめることがたくさんあると感じていた。

「8 高齢者のマイナスイメージが払しょくされ

表4 高齢者の持つ知恵の大切さへの感知 n=12

質問項目		「そう思う」、「そう思わない」理由
7 肯定的な側面で、高齢者理解の進展があった	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を大切にしている ・身体機能低下の側面から援助していく必要があることの理解ができた ・歳を重ねても、とても元気で、まだまだ楽しめることがたくさんある
8 高齢者のマイナスイメージが払しょくされた	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・とても活動的であると感じた ・これまでの高齢者の生活を聞き、昔経験したことが現在につながるような生活が送れている話を聞き理解することができた ・高齢者も元気な人はたくさんいると感じたから ・元気できはきされていた
	思わない	<ul style="list-style-type: none"> ・もともとマイナスイメージはなかったもので、そう思わない ・プラス面ばかりでないという考えに変化がないため
9 高齢者には、歴史があり、経験からのたくましさがある	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富でたくましい雰囲気を感じられた ・T市の歴史について皆さん詳しく説明して下さり、説得力があった ・T市のことをいろいろ教わったため
10 高齢者は、生き生きと生活し、パワーがある	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会でパワーを感じた ・交流した皆さん全員若々しく、元気に満ち溢れていた ・身体の変化を受け入れ、そのうえで、生き生きとされる姿を見ることができた ・交流会に参加している人はパワフルでした ・自ら発言があり、学生も楽しく話に参加できたから ・人生を楽しんでおられたため
11 高齢者は、前向きな姿勢のすごさがある	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・会話がそのように感じた ・好きなことを行って人生を楽しんでいた ・歴史について子供たちに教えてあげようと次々に自分の考えを言われていた ・何でも行動に移している様子が見られたから ・マイナスな言葉を聞かなかったし、表情もずっと笑顔だった

た」で「はい」と回答したのは5人(41.7%)で、高齢者も元気な人がたくさんいるという理由であった。

「いいえ」と回答したのは6人(50%)で、もともとマイナスのイメージがないという回答であった。

(c) 自分自身への啓発

自分自身への啓発は図3と表5に示す如く、「12自分なりの理想的な高齢者像を持つことができた」で、「はい」と回答したのは8人(66.7%)で、その理由は、高齢者のように生き生きとしていたいや、身体の衰えに負けず元気にされている姿を見て、理想的と感じていた。また、笑顔の人を見ていいなと思ったなどであった。

「14 祖父母への関わり方に反省の気持ちを持つ

表5 自分自身への啓発 n=12

質問項目		「そう思う」、「そう思わない」理由
12 自分なりの理想的な高齢者像を持つことができた	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のように生き生きとしていたいと思った ・いつまでも元気でいたいと思った ・身体の衰えに負けず、元気にされている姿を見て、理想的と感じた ・笑顔の人を見て、いいなと思った
	思わない	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的にイメージすることが難しい ・様々な方がいていまだまとめることができていないため
13 自分への生き方の示唆が得られた	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で楽しみを見つけると、楽しく生活できることが分かった ・いろんな話をしてあげたり、聞いたりしてあげたらよかった
	思わない	<ul style="list-style-type: none"> ・よりたくさんの人と交流し、考えていきたいから。現段階ではまだ得られていない ・今回の交流会では、生き方までは示唆されていない ・よくわからなかった
14 祖父母への関わり方に反省の気持ちを持った	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと介入したら自分の知らない祖父母がみられると思ったため ・自分が今まで行ってきた関わりについて、改善する気持ちになった
	思わない	<ul style="list-style-type: none"> ・祖父母に対して、反省の気持ちを持つことはなかったが、出来る限り一緒にいて困っていれば助けたいという気持ちが大きくなった ・普段から真剣に関わっているので、特に反省することはなかった ・祖父は亡くなっているが、祖母のことは大切にしているから

た」で、「はい」と回答したのは3人(25%)であった。

理由は、もっと介入したら自分の知らない祖父母がみられるや、自分が今まで行ってきた祖父母への関わりについて、改善する気持ちになったことであった。

「13 自分への生き方の示唆が得られた」で「はい」と回答したのは2人(16.7%)で、理由は、笑顔で楽みを見つけると、楽しく生活できることが分かったであった。

(d) 地域の課題への認識

地域の課題への認識は、図3と表6に示す如く、「15 地域のことをいろいろ教えてもらった」は、全員が「はい」と回答した。理由は、T市の歴史について学ぶことができたことや、地域の歴史について分かりやすい説明をして下さったであった。

表6 地域の課題への認識 n=12

質問項目		「そう思う」, 「そう思わない」理由
15地域のことをいろいろ教えてもらった	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドで教えてもらった ・T市の歴史について学ぶことができた ・地域の歴史について分かりやすい説明をして下さった

(e) 世代間交流システムづくりへの期待

世代間交流システムづくりへの期待は、図3と表7に示す如く、「20 看護学生と元気高齢者の継続的な交流を希望する」は、全員が「はい」と回答した。理由は、交流することにより、お互いが学ぶことがある。今後も定期的に行えるとよい。学生と関わることで、地域活性につながり、文化などを継続していける。自分の看護力につながる。高齢者の理解につながりやすくなる。このような機会をもっと増やし、学生も社会性を身につけるべきという回答であった。

「19 高齢者が活動できる場の増大を期待する」で「はい」と回答したのは11人(91.7%)で、理由は、高齢者がもっと活動できる場を増やすべき。高齢者主体のものを計画、実施できるとよい。学生と関わ

表7 世代間交流システムづくりへの期待 n=12

質問項目		「そう思う」, 「そう思わない」理由
16世代の違う方々と情報交換をすることができた	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・地域について、情報を得ることができ、活性化について考えることができる ・子どもたちから高齢者の方まで3世代の関わりをしていただき、歴史についてやはやっている遊びなど様々な情報を交換することができた
	思わない	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換をすることができなかった ・自分のことをあまり話さなかった
17高齢者の経験を活かした社会活動の必要性を知ることができた	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・昔のことを話したりしてほしいと感じたから ・今回のようにあらゆる世代が集まり、情報交換や、歴史の伝承は、地域社会で暮らす人たちにとって良い経験になる ・昔のこと、生活の知恵など知っておきたいことは山ほどある ・高齢者の経験を活かした社会活動の必要性が知れた ・交流会をしたことにより自分の知らなかったを知れたという事も学べたことの1つであるが、コミュニケーション能力を鍛えることができた
	思わない	<ul style="list-style-type: none"> ・そのことについて話さなかった
18学生との交流活動は、地域の高齢者の生きがいにつながっている	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しそうに感じたから ・若い人と話す機会はあまりないからと言ってもらって、うれしかった ・高齢者の方が若い世代の人との関わりを楽しんでくれていると知ったため ・高齢者も学生の関わりで自分の知っていることを教えてあげようという気持ちも高まり、生きがいの1つになると感じる ・いつも関わる世代でない人と関われる。外に出る機会が増える ・歴史について知ってもらえうれしいと、おっしゃっていたから
	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・期待しているから ・高齢者がもっと活動できる場を増やすべき ・高齢者主体のものを計画、実施できるとよい ・今回の件でもそうであるが、このような場を増やすことにより高齢者だけでなく地域全体が盛り上がると思う ・学生と関わることで、地域活性につながり、文化などを継続していける
20看護学生と元気高齢者の継続的な交流を希望する	そう思う	<ul style="list-style-type: none"> ・交流することにより、お互いが学ぶことがある ・今後も定期的に行えるとよい ・学生と関わることで、地域活性につながり、文化などを継続していける ・自分の看護力につながる ・高齢者の理解につながりやすくなる ・今回の交流会で、自分たちもたくさん学ぶことができた。このような機会をもっと増やし学生も社会性を身につけるべきだ ・とても楽しかった

ることで、地域活性につながり、文化などを継続していけるのである。

「18 学生との交流活動は、地域の高齢者の生きがいにつながっている」で、「はい」と回答したのは10人（83.3%）で理由は、高齢者の方が「若い人と話す機会はあまりないから」と言ってもらえうれしかったことや、若い世代の人との関わりを楽しんでくれていると知った。また、高齢者も学生との関わりで、自分の知っていることを教えてあげようという気持ちも高まり、生きがいになると感じるなどであった。

「17 高齢者の経験を活かした社会活動の必要性を知ることができた」で、「はい」と回答したのは7人（58.3%）で、理由は、昔のことを話したりしてほしいと感じた。今回のようにあらゆる世代が集まり、情報交換や、歴史の伝承は、地域社会で暮らす人たちにとって良い経験になる。昔のこと、生活の知恵など知っておきたいことは山ほどある。高齢者の経験を活かした社会活動の必要性が知れたであった。

「16 世代の違う方々と「情報交換をすることができた」で、「はい」と回答したのは6人（50%）で理由は、地域について情報を得ることができ、活性化について考えることができたであった。

5. 考察

(1) 看護学生として高齢者の理解と尊敬

1) 高齢者への理解

対象とした看護学生は、すでに「老年看護学概論」「老年看護学Ⅰ・Ⅱ」を学習済みであり、現在「老年看護学実習」の途中である。また、現在まで高齢者との世代間交流は全員が経験している。その内容は、学校の行事を通しての地域の伝承が最も多かった。

今回の交流により、「高齢者の健康に対する関心」

や「加齢に伴う身体機能の低下と外見の変化」は、ほとんどの学生が理解していた。参加された高齢者は全員75歳以上であり、会話の内容や外見、行動から特徴がとらえやすかったのではないかと思われる。しかし、「個別性の理解」、「多様性の理解」、「普段の生活」については、性格や価値観の違いをとらえていた学生もいたが、「自宅に行ったことがないからわからない」と回答しているように今回の交流内容ではわかりにくかったと考えられる。

高齢者が「たくましく」「生き生きと生活し、パワーがある」ことは、全員が感じている。その理由は、今回参加された高齢者は、日頃からいろいろな活動をされている元気高齢者であり、経験豊富でたくましい雰囲気、T市の歴史の説明に説得力があったことや、交流の様子から若々しく、生き生きとされる姿から理解できていた。

元気な高齢者と触れ合い、マイナスイメージが払しょくされた学生もいた。高齢者は、弱弱しく元気がないというステレオタイプのイメージに変化があったものと思われる。

T市の歴史の説明で、自分の考えを言われている高齢者が多く、積極的と感じていた。また、マイナスな言葉を聞かなかったことから、肯定的な側面で、高齢者理解が深まったと思われる。

2) 高齢者の尊敬

交流後、看護学生は全員が高齢者に対して尊敬を深めることができていた。その理由として、地域のことや若年者のことを大切にしていること、知識も常識などもあり、人生の先輩として見習うことがたくさんあるなど会話の中から感じている様子がうかがえた。

三世帯世帯の割合が高い時代では、高齢者は、若者や子どもの持っていない知恵や英智、知識や経験を持っていることで社会や家庭でリーダーシップを取ることができ、尊敬される存在であった。しかし、2014年の国民基礎調査¹⁵⁾によると、三世帯世帯の

割合は6.9%となっており、高齢者から直接話を聞くことが難しくなっている現状である。看護学生は特に、このような世代間交流を通して高齢者に対する尊敬の気持ちを育てる必要がある。

(2) 世代間交流会についての看護学生の学び

第1回の交流会では、全員が楽しかったと回答した。交流内容は、T市の名所・旧跡について高齢者が説明し、その後学童を交えてレクリエーションを行うというものであった。看護学生は、ただ参加するだけでなく交流会に向けてT市の名所・旧跡を回り、写真を撮りパワーポイントを作製した。他県から大学に入学している学生にとって、実際に自分たちの足で名所・旧跡を訪ねることで自分たちの大学があるT市の歴史に興味もわき、高齢者の説明が理解しやすかったと述べている。また、高齢者と学童双方が楽しめるレクリエーションを企画し、一緒に遊ぶことで、高齢者や学童との会話が容易になったのではないと思われる。

第2回交流会は、大学の学園祭に老人クラブの高齢者を招待し、交流を行った。看護学生は、血圧測定を担当した。第1回の交流会の写真やレクリエーションで作成した貼り絵を展示することで、前回の交流を思い出し、高齢者と交流できたのではないと思われる。『高齢者から、「健康相談ができて良かった」などの感想もあり、このような交流の仕方もあるのだと思った』『老人クラブの人が喜んでおられた』『今回、大学に足を運んでもらい交流できたことはよかった』などの感想から、高齢者を学園祭に招待し、交流を行うことは意義があると感じた。

交流会に参加することにより、少人数であったが、祖父母への関わり方について、反省する気持ちがみられた。また、交流した高齢者のように生き生きと、元気でいたいと多くの学生が回答していた。

(3) 今後の展望

2回の交流会を終え、元気高齢者との継続的な交流を全員が希望していた。理由は、交流することに

より、お互いが学ぶことができることである。高齢者は学生と関わることで、生きがいを感じ若者に文化を継続していける。看護学生は、高齢者の理解につながり、将来自分の看護力が向上できる。ひいては、地域の活性化につながっていく。

「高齢者が活動できる場の増大を期待」と「交流活動は、地域の高齢者の生きがいにつながる」は、8割以上が「はい」と回答し、「もっと活動できる場を増やすべき」「高齢者を主体とした交流を計画、実施できるとよい」「『若い人と話す機会はあまりないから』と言っておられた」「若い世代の人との関わりを楽しんでくれていると知った」「高齢者も学生との関わりで、自分の知っていることを教えてあげようという気持ちも高まり、生きがいの1つになると感じる」などの理由を記入していた。

これらは、草野¹⁶⁾が「世代間交流」の利点としてあげている「高齢者の社会的孤立を防ぐ」「高齢者の能力、英智、経験の社会的活用」「歴史的、文化的交流と伝承」「個々人の人間発達を推進し、相互互恵性から相乗効果をもたらす」「生活の質を高める」「交流を通じて地域社会の統合」に当てはまる。また、高山¹⁷⁾は高齢者との交流頻度と高齢者に対する肯定的イメージについて、青少年への調査の結果交流経験の多いほど肯定的なイメージを持つものが増えたことを報告している。今回は2度の交流であったが、意見交換会で今後の交流内容として、「昔の遊び」「皆で一緒にものづくり」「運動会」など具体的な内容も出ていることから、今後交流回数を増やし定期的に実施していくなどシステムづくりをすることが望まれる。

6. 結論

「元気高齢者との継続的な交流」を希望している学生は全員であり、理由についても高齢者は「社会的孤立を防ぐ」「英智や経験の社会的活用」「生活の

質を高める」, 看護学生は「歴史や文化の伝承」そして、高齢者と看護学生双方に「相互互惠性をもたらす」「地域社会の統合」など世代間交流の利点について述べていた。看護学生は、臨地実習を通じて高齢者と関わる機会が多く、看護学生の高齢者イメージは今後の看護全般に影響をもたらすことから

高齢者への肯定的イメージを育てるためにも高齢者との世代間交流は有効であると考ええる。

今後、地域高齢者と児童を含めて看護学生が核となり、三世代交流を実施していくことが望ましいとの結論を得た。

(引用・参考文献)

- 1) 斎藤嘉孝 (2010) 子どもを伸ばす世代間交流—子どもをあらゆる世代とすごさせよう, 勉誠出版株式会社, 109
- 2) ナンシー・Z・ヘンケン, ドナ・バツ (2008) 第5章, アメリカにおける世代間交流の課題を進めて, マシュー・カプラン, ナンシー・ヘンケン編著, 草野篤子編著・監修, 加藤澄訳, グローバル時代を生きる世代間交流, 株式会社明石書店, 107-129
- 3) 草野篤子 (2009), 第1部 第1章, 世代間交流理論構築のための序章とその歴史, 草野篤子, 金田利子, 間野百子他編, 世代間交流効果—人間発達と共生社会づくりの視点から—, 三学出版, 1-17
- 4) 3) 再掲
- 5) 健康長寿ネットわが国における世代間交流の活動 その2 <http://www.tyoju.or.jp/hp/page000003800/hpg000003767.htm> 2015.11.28
- 6) 内閣府 27年版高齢社会白書 (全体版) http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2015/zenbun/pdf/1s1s_1.pdf 2015.12.20
- 7) 内閣府 平成27年度版 少子化社会対策白書 http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2015/27webgaiyoh/html/gb1_s1-1.htm 2015.12.20
- 8) 前掲3) p 8
- 9) 安永正史 (2015), 第1章, 世代間交流プログラムが児童の高齢者イメージに与える影響, 草野篤子, 溝邊和成, 内田勇人他 (2015) 人を結び, 未来を拓く世代間交流, 三学出版, 1-15
- 10) 岡山県高齢化率等 (高齢者・介護保険・老人医療・国民健康保険医療関連) 岡山県の高齢者 (65歳以上) の市町村別状況 http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/9870_44751_misc.pdf 2015.12.20
- 11) 木村麻紀, 澤田和子, 太湯好子他, (2015) 中山間地域の高齢者と子どもの暮らしをまもる住民相互の支援体制 (第1報)—高齢者の子どもとの絆を深める交流に対する意識—, 吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系) 第25号, 85-93,
- 12) 澤田和子, 木村麻紀, 太湯好子他 (2015) 中山間地域の高齢者と子どもの暮らしをまもる住民相互の支援体制 (第2報)—学童保育に通う子どもとその親の高齢者との絆を深める交流に対する意識—吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系) 第25号, 95-103
- 13) 花井篤子 (2014) 水中運動を活用した世代間交流プログラム, 北翔大学短期大学部研究紀要, 第52号, 97-103
- 14) 張平平, 大塚真理子, 辻玲子他 (2013) 看護学生と地域高齢者との交流がもたらした成果—文献研究を通して—, 埼玉県立大学紀要15, 43-51
- 15) 平成26年 国民生活基礎調査の概況 世帯数と世帯人員数の状況 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa14/dl/02.pdf> 2015.12.20
- 16) 前掲3) p 8
- 17) 高山緑, 青少年と高齢者の世代間交流プログラムに関する一考察 (2004) 武蔵工業大学環境情報学部紀要, 第5号, 121-130